

(様式1)

平成 23 年度
研究助成報告書

提出日 平成 24 年 3 月 28 日

研究の種類 共同研究

共同研究 (含む海外) ・ 個人研究 ・ 出版助成

研究課題名 詩人としての朱熹に関する基礎的研究

副題名 絶句表現の諸相を中心として

研究代表者及び研究分担者 (所属・職名・氏名)

曹元春 文芸学部・文芸教育学科、教授

宇野直人 国際学部・中国文化学科、教授

川上哲正 国際学部非常勤講師

後藤淳一 専修大学法学部非常勤講師

松野敏之 早稲田大学文学学術院非常勤講師

研究期間 (当該年度期間に何時何処でどんな事をしたか、年間スケジュールを記入)

(例: 7月25日 共立博物館において〇〇の資料収集)

4月9日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻五) の会読。

5月14日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻五) の会読。

6月18日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻五) の会読。

7月23日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻五) の会読。

8月1日～9日 北京図書館 (中国北京市) において『朱子文集』の資料調査

8月13日～20日 上海図書館 (中国上海市) において『朱文公文集』(宋版) の資料調査。

8月24日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻五) の会読 (巻五読了)

9月29日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻六) の会読。

10月27日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻六) の会読。

11月17日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻六) の会読。

12月8日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻六) の会読。

2012年

1月19日 共立女子大学において朱熹の絶句 (『朱文公文集』巻六) の会読。

1月21日～22日 蓬左文庫 (名古屋市) において『朱文公文集』(明版) の資料調査。

(様式2)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]		
(共同研究のみ記入)		
曹元春	文芸学部・文芸教育学科、教授	『朱文公文集』巻五に収める絶句を分担して、校勘、解釈、関連調査を行うことに携える。全体の総括。
宇野直人	国際学部・中国文化学科、教授	『朱文公文集』巻五に収める絶句計67首、作品番号210~276を均等に分担して、校勘、解釈、関連調査を行うことに携える。
川上哲正	国際学部非常勤講師	同上。
後藤淳一	専修大学法学部非常勤講師	同上。
松野敏之	早稲田大学文学学術院非常勤講師	同上。
研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書		

(様式3)

研究実績の概要

研究助成を得て、『朱文公文集』に掲載する朱熹の絶句を定期的に会読していき、参考書や資料検索などを活用しながら研究会員各自が順調に完成稿を仕上げている。また、詩の解釈においては、一語・一字の異同が大きな解釈の違いをもたらすこともある。各所蔵機関における資料調査は、朱熹および『朱文公文集』の基礎的研究ではあるが、詩の解釈においては特に重要な意義をもつ。やはりいくつかの詩においては、解釈の争点となるような字句の異同が認められたためである。

これら資料調査における成果をふまえながら、定期的な会読会を開催したことによって、今年度の目標であった『朱文公文集』巻五の絶句を早い段階ですべて読み終えることができた。現在、『朱子絶句全訳注』第五冊（『朱文公文集』巻五）の草稿を完成させ、汲古書院に刊行の見積もりをとり、平成24年度の科学研究費補助金一学術図書一に申請しているところである。